

相談支援アドバイザーについて

1 目 的

民間社会福祉法人の相談支援専門員等の専門家から、利用者一人一人の障害特性、意思や意向、希望に合わせた支援方法や環境等についてのアドバイスをいただき、支援に反映させる。それにより支援水準を向上させるとともに見直しを行い、支援の改善を図ることで、利用者一人一人のより良い暮らしに繋げていく。

2 取り組みの流れ

相談支援アドバイザー（以下アドバイザー）から支援状況・内容の確認、アドバイス、意見等指摘を頂いた内容については、課題を整理し、PDCA サイクルに基づいて改善を図り、改善の状況をアドバイザーに確認していただいた。

3 アドバイスの状況

- (1) 障害者支援施設の施設長、課長、主任、看護師など、様々な職種の視点から支援についてのアドバイスをいただいた。
- (2) 書類、ケース記録、支援場面、支援体制、施設環境などを確認いただいた。
時間帯は、食事、入浴、夕方など様々な時間帯を確認してもらった。
- (3) 平成26年度、アドバイザーの来園開始当初、食事場面では
 - ①食事支援時の見守り時の職員の姿勢について、
 - ②汚れた口をすぐに拭ける環境について、の2点指摘を頂いた。①については、支援員が座る椅子を設定し座って見守れる環境を整えた。②については、食堂や洗面所へティッシュペーパーを設置することで直ぐに口元の汚れを綺麗にする環境を整えた。2点の改善については次の訪問時に状況を確認いただいた。
また、暮らしの場として装飾等について助言をいただき、安心・安全という観点だけでなく、暮らしの場としての生活環境という観点から、改善に踏み出すきっかけとなった。

4 取り組み内容と成果

- (1) 記録や支援体制などが評価される反面、支援での細かな配慮や暮らしの場としての生活感など雰囲気については工夫が必要であると助言いただき、明るく開放的な暮らしの場作りに努めた。
- (2) 身体障害が重複しているケースでは、ご本人の状況についてアドバイザーから助言や意見をいただく中で、更生園の手厚い支援体制が評価されると共に、ご本人の意向を踏まえた上で、身体障害の施設での暮らしの可能性について確認いただいた。
ご本人が十分満足頂ける環境を提供できると確認出来たことから、いただいた助言をもとに、保護者へ情報提供を行い、施設見学を実施した。現在、体験利用に向け調整中である。

5 今年度の取り組み状況

平成29年度は2法人からアドバイザーを派遣していただく。

①社会福祉法人 佑啓会

- ・2名の職員から、重度、高齢、身体、医療的ケアの必要な方について助言をいただく。（地域移行に向けた助言もいただく）

②社会福祉法人 心聖会（11月から開始予定）

- ・1名の施設長から、強度行動障害、行動障害のある方について助言をいただく。

6 今後の取り組み

第三者の貴重な視点による、支援の見直しやより良い暮らしの提供をしていく上での重要な機会と捉える。また、地域移行へ向けてアドバイザーと連携して取り組んで行く予定である。

月一回程度来園いただき、利用者一人一人の意向に沿った暮らしの実現に向けて、利用者側の視点に立った助言や意見をいただき、課題の解決や改善を図り、次回に状況を確認いただく。

①身体・医療的ケア・高齢の方

理学療法士からの専門職の視点から、助言を受け、見直し改善を図る。

- ・暮らしと環境
- ・機能維持
- ・地域移行

②行動障害のある利用者への支援について

- ・仕事と楽しみ
- ・職住分離
- ・暮らしと環境
- ・地域生活

③介護保険の利用に向けての検討

介護保険利用について、アドバイザーの検討を行っている。

- ・高齢の方について暮らしと楽しみ
- ・地域生活
- ・介護保険の利用について